

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600376		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム「和花」 Aユニット		
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目4番12号		
自己評価作成日	令和 5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 10月 11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴や買い物など、様々な希望に対して、速やかに対応し、入居者様一人ひとりが ご自分のペースで生活ができるよう 取り組んでいる。趣味や経験をいかした、生活ができるよう、他部署との連携をしながら、畑を作り、収穫したものを 入居様と共に調理を行い、季節感を味わっている。複合施設の特性を活かし、行事での交流、屋内散歩の実施、他部署との連携を図っております。また、ご家族様への 電話での 近況報告を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR白老駅やウポポイに程近くスーパーや商店が立ち並ぶ幹線道路沿いに位置し、開設10年目を迎えた事業所である。運営法人は道央佐藤病院を主軸に幅広い医療・福祉のネットワークを構築し多種の医療・福祉事業所を展開している。当事業所はデイサービス、介護付き有料老人ホーム、居宅介護支援事業所と共に高齢者複合施設として存在し、サービスの多機能性を有している。機能訓練室でマシンを使った運動や畑作業などを他部署と連携し利用者の生活への意欲や楽しみ毎として、また作業療法的要素も取り入れ、心身の活性化に向けている。敷地内の自然豊かな庭園や周辺の公園、ホームセンターやスーパーへの買い物等、外出の機会を大切にしている。共用空間では体操の他に利用者の趣味やゲームを取り入れている。季節に応じた作品作りを利用者の力が発揮できるよう工夫している。協力医療機関への送迎はスタッフがその都度配置され、家族・利用者の負担軽減となっている。ケアマネジメントの充実を目指し、自立支援や重度化予防に向けた介護計画となっている。利用者のその人らしさを基本に、自由な暮らしをチーム力で支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で考えた基本理念をもとに、朝礼で復唱し、職員が共通意識を持ち、ケアに取り組む。	理念はパンフレットに明示し家族へ説明すると共に、事業所内要所へ掲示している。毎朝、職員は唱和し、理念が支援に反映できるよう努め、利用者の暮らしが豊かなものとなるよう実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染予防のため、地域交流はできなかったが、定期的に 地域のお店から 主張で調理や弁当を頼み、地域交流する機会を作っている。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。相互交流は感染対策により控えている。町内のホームセンターやスーパーでの買い物や、行事の際での飲食店からの調理支援等を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設け、いつでも見学などが できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回 入居者様、ご家族様、地域包括の方々の意見や施設での取り組みなどの話し合いを行い、サービスの向上にいかしている。	地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族、利用者の参加を得て、参集での会議を開催している。利用者の状況報告や事故、ヒヤリハット、行事や研修報告等の議題をもとに協議している。	会議案内と議事録を全家族に送付し、会議へ参加が難しい家族からも要望や助言等を得て、運営に活かせるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼や、白老町が開催している、認知症の人たちの家族の集いにも参加している。	町の高齢者介護課担当者とは、情報交換をするなど協力関係を築いている。施設長等が「認知症の人と家族などの会」に参加し事業所資源の提供など福祉の推進に努めている。感染対策では保健所とも連携し対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけているようにしている。	身体拘束等行動制限についての取扱要領を指針で定め、利用契約時に家族に説明し同意を得ている。身体拘束廃止委員会を開催し、ベッド柵やセンサーの設置について該当利用者毎にモニタリングを行い検討している。内部研修では、「身体拘束とは何か」「虐待の定義や種類」について学んでいる。ユニット玄関の施設は夜間帯のみで、日中はAB両棟ユニットの行き来も可能である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、虐待に対して正しい知識を身につけている。		

グループホーム「和花」 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際は、説明をし、署名をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見反映をできるようにしている。	利用者からの買い物や外出、運動などの要望には、その都度、個別に支援内容を検討し、対応している。家族からの面会についての意見や要望では、面会場所の拡大や、居室内面会の体制を整えた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和花ミーティングを定期的に行い、意見交換を行っている。業務の中でも意見や相談ができるようにしている。	毎月のユニット会議では、職員からの支援や運営に関する率直な意見交換や検討の場となるよう話しやすい雰囲気のもとに開催している。今年度は、情報伝達の即効性や環境整備を含め、見直しを行っている。管理者は、年2回職員との個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や法人内の自己評価、キャリアパス研修の実施、資格取得による給料アップなどを行い、向上心を持って働く機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修や内外研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白老町の開催している研修に参加し、和花ミーティングを通じ、勉強会や報告を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始前に面談を行い、本人の意向や思いを伺い、安心して頂けるようにしている。		

グループホーム「和花」 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前に面談を行い、家族の意向や思いを伺い、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認するとともに、関係機関からの情報提供も含め、必要としている支援を見極めるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にあった生活リズムが作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡をした際に、日常生活の様子を伝える様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や、近所のお店に買い物に行くようにしている。	現在、家族面会は居室でも可能となっている。家族との外出や外泊、外食も個々の希望を取り入れ、関係継続をサポートしている。法人のマイクロバスで町内の馴染みの風景に触れる機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間だけではなく、余暇の時間にトランプや花札、かるたなどをして公流できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族様と、町が開催している認知症の人たちの家族の集いで会う機会があるので、現在の様子などを確認している。これからも相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取りを行い、日常生活の言動から、把握しているようにしている。困難な場合はサービス担当者会議などで、検討している。	日頃から会話や触れ合いを通して、思いの把握に努めている。受容的態度を大切に、安心して思いなどを話してもらえるよう努めている。表現が困難な利用者には家族からの情報や表情、仕草、申し送り等で情報を共有している。	

グループホーム「和花」Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、日常生活の様子などから聞いた事や、本人の様子などを記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、趣味などを本人、家族から聞き取りして、アセスメントを作成する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的実施。その都度、話し合い介護計画を作成している。	作業療法士もメンバーとして、共同でアセスメントやモニタリングを行っている。本人の望む生活を主体とし、家族の意向を確認しながら自立支援や重度化予防に向けた計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実施を記録している。生活記録やアセスメントを活用して、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や意向に合わせて、グループホームだけではなく、他部署と連携してサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の影響のため、地域との関わりが難しい状況。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠くへの病院へは、家族に協力していただき、行きなれた病院へ通えるようにしている。主治医の変更など、希望があれば対応している。	事業所の協力医療機関の体制を説明した上でかかりつけ医を相談し決定している。協力医療機関への受診は送迎付で病院受診スタッフが同行している。週1回の訪問看護や歯科の必要時の往診体制がある。医療機関により家族対応の協力を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週 訪問看護が来て、連携をとっている。状態の変化があれば、部署の看護師や、かかりつけの病院への連絡、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には 情報交換や相談をしている。		

グループホーム「和花」 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人の状態が悪化した場合にはその都度、家族と相談している。	利用契約時に重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を説明し同意を得ている。主治医の判断や意見をもとに家族と今後の方針を決めている。話し合いの結果は相談記録に記している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時 事故発生時のマニュアルの設置。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練を実施している。	令和4年10月に複合施設合同の職員緊急連絡訓練を実施している。本年6月の施設合同での夜間想定地震・火災避難訓練は、感染対策により見送っているが、訓練手順等を全職員に周知している。自家発電機を含め災害備蓄品を備えている。自然災害時における業務継続計画の更新を検討している。	感染対策により火災・自然災害に係る昼夜を想定した避難訓練が見送られている現状である。状況を鑑みつつ、消防署の指導も得た実践的な訓練の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応のため、プライバシーの確保はできている。また、トイレの声掛けは周囲に聞こえないように配慮している。	利用者へは名字で呼びかけし、丁寧な声掛けに努めている。居室訪問の際ノックを徹底し、居室で過ごしたい利用者には、入口に暖簾をかけるなど見守りに工夫している。利用者への接遇で気づきがあった場合は、ユニット会議や連絡ノートで伝え合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話や、声掛けの際は 表情や反応で、何を望んでいるのかを把握し、本人が決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望の通りのことが行える様にしている。そして、日々の生活の中で、自分の役割をもてるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする、好きな服を選び 着られるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものには別メニューで提供。入居者様とのメニューづくりを行っている。食事の準備や片付けなども、一緒にこなしている。	法人栄養士と相談し、職員が献立している。旬の食材を取り入れ、誕生日や日常の中でも希望食を提供している。季節行事食や出張出前寿司も好評で、特に茶碗蒸しの出前に人気がある。食事準備から後片付けの間、可能な限り、利用者も一緒に参加している。	

グループホーム「和花」 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限、水分制限がある方へは 個別対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時だけではなく、毎食後は入居者様、全員が口腔ケアを行える様にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあった 排泄ケアがおこなえるように、生活記録に排泄状況を記録している。	個人記録表に排尿・排便の周期や量等を記載している。居室内にトイレがあり、誘導が必要な利用者には適宜、時間誘導している。尿意等の際には食事前等に声かけし、自らの排泄を支援している。夜間帯も個々に寄り沿う支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など体を動かす、家族に相談して、乳製品の購入などで、協力していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、本人の希望に沿って、入浴できるようにしている。	午前午後の時間帯枠はあるが、利用者1人ひとり週2回の入浴を基本に、要望に即して対応している。介護度の高い方へは2名介助で支援し、状態に応じてはシャワー浴を行っている。温泉の湯を使っているのも楽しみの一つとなっており、浴後には利用者の好みの飲み物を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決められた消灯時間ではなく、個々のペースで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに入れており、いつでも確認できりょうにしている。薬の変更などがあれば、その都度、周知している。		

グループホーム「和花」 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、裁縫など好きなことがおこなえるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の影響で 外食は控えている。買い物や畑仕事ができるようにしている。	敷地内の中庭や畑仕事で外気に触れたり、隣接の公園の桜見学に行くなど、施設や周辺環境を最大限に活かし、戸外で過ごせるようにしている。マイクロバスで町内の景色を眺めたり、スーパーやホームセンターへ買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望があれば、できるかぎり、本人に管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルームの電話はいつでも、使用できる。毎日、ご家族様と電話ではなされている、入居様もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、浴室、居間、トイレに手すりが設置。温度と湿度は毎朝チェックし、調整している。季節ごとに 行事に沿った、飾りや、お部屋の壁にも、手作りの作品を展示している。	共用空間は清潔感があり、明るく広い造りである。リビングからは屋上庭園への出入りが可能であり、窓からは自然の景色や四季の移ろいを感じる事ができる。テーブルや椅子の配置は落ち着いて過ごせるよう工夫されている。エアコン、加湿器で空調管理している。利用者と職員が一緒に制作した壁面飾りが季節感を漂わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に 行ききできるので、みんなと居間で過ごすのは、入居様本人の意志にまかせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、居心地のいい、空間をつくる工夫をしている。	居室にはトイレ、洗面所、エアコンが備え付けられている。馴染みの家具や調度品、家族の写真、本など、大切な品々が持ち込まれている。体調の変化時には、より安心して過ごせるよう物の配置等を検討しサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー。居間、トイレ、浴室には手すりを設置している。		